

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. インターハイ (8/7~11 北海道十勝連峰・大雪山系) 報告
2. 県民ハイキング (8/27 蓮華寺山) 報告
3. クライミングスクール (9/3 三倉岳) 報告
4. 比婆山山系の沢登りルート紹介
5. ありんこチーム活動 (5/27~28 笹ヶ峰一帯) 報告
6. 岳連短信 (寄贈御礼、9~10月の行事予定)

1. インターハイ報告

(県高体連登山部事務局長 内藤 弘泰)

令和5年度全国高等学校総合体育大会登山大会の報告をします。

6月に行われた県大会で、広島県代表に選ばれた、男子は広島学院高校、女子はノートルダム清心高校が、令和5年8月7日(月)~11日(金)で、北海道大雪山系・十勝連峰で行われたインターハイに出場しました。北海道の東川町・上川町・美瑛町・上富良野町にまたがる規模のたいへん大きな大会でした。

1日目は、旭川市の市民会館で開会式・筆記試験を行い、2日目は上ホロカメットク山・十勝岳を縦走するコースの予定でしたが、悪天候のため途中で引き返すことになってしまいました。3日目は層雲峡からロープウェイで黒岳七合目にあがり、黒岳・北鎮岳・裾合平を縦走し、広島にはない雄大な景色を味わうことができました。4日目は、素晴らしい天気めぐまれて旭岳を堪能することができました。

5日目には旭川市の市民会館で閉会式が行われました。結果は、広島学院が8位、ノートルダム清心が11

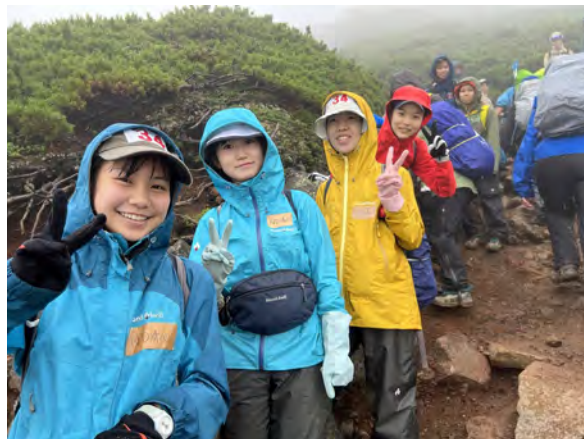
位でした。

悪天候のため、体育館へ避難したり、選手が発熱してそのパーティが棄権をしたり、さまざまな波乱がありました。無事大会を終えることができ、北海道の運営スタッフの皆さんには頭が下がる思いです。本当にありがとうございました。

2025年には広島でインターハイを開催することが決まっています。北海道に負けたくない、高校生の皆さんにとって充実した大会になるよう、準備をすすめていきたいと思っています。



開会式で昨年度優勝の広島学院が優勝杯を返還しレプリカを受け取る



登山1日目のノートルダム清心チーム



大雨で幕営地も大変→屋内に避難



登山 3 日目、大雪山旭岳にて広島学院チームと広島県視察スタッフ

2. 県民ハイキング報告

(理事 宮本 由美子)

4/18 の会議だったか、6 月以降の県民ハイキングの計画が発案され、6 月は牛田山、10 月は宮島、12 月は鈴が峰・鬼ヶ城と決まった。そして暑い 8 月は、少しでも涼しい所を、ということで、県北の山の家も出たが、アクセス等で難がありパス。その時、所属する会の月例山行で、昨年蓮華寺山～高城山を縦走した時、ここは適当に木がかぶっていて夏でも行けるなと考えたことを思い出し、つつい「蓮華寺山だったらアクセス的にも一般初心者にもいいのではないですか」と口に出したのがミス？ 理事として連盟の役員になって間もないのに、担当のお鉢が回ってきた。

蓮華寺山は前述のように、普通高城山とセットで登られることが多い。しかし、一般参加者のレベルはわからないまでも、行程時間やアクセスを考えると、今回は蓮華寺山のみが適当と思われた。すると登山プランは、①安芸中野駅～山頂ピストン ②安芸中野駅～山頂～瀬野川中学校方面～駅 ③安芸中野駅～山頂～畑賀～駅 が考えられた。そしてやはり少しでも充実した登山にしてほしいので、3 つのコースを下見することにした。

まず 7 月 1 日、②のコースを単独で下見。これは、『ふるさとの山歩き』で京才元会長のレポで紹介されており、その記事も参考に歩いてみた。道は下りも何とかはっきりしており、小川や古い寺院らしきものにも遭遇し、それなりに歩き甲斐があるが、急な下りも多く、初心者には?? 迷っていたら、数日後の大雨で土砂崩れがあったようで、下りは通行止め。で、②案は却下。

③案は 7 月 12 日、山友と 2 人で歩いてみたが、畑賀に下山した後、駅まで延々 30 分強の舗装路を炎天下歩くことを考えると、これも却下。従って、区民ハイキングなどでもよく実施されている①の案を実行することとした。

そして、救難対策の林道探索もあり、7 月 16 日、豊田理事長や村井副会長含め 12 人で 3 回目の下見をした。ただこのコースの難点は、登山時間だけだったら、往復 2 時間の短距離コースなので、どれだけ歴史説明等で肉付けして、少しでも充実した山行きにするかが検討課題だった。

8 月 27 日、県民ハイキングの本番を迎えた。一般参加者 10 名、岳連参加者 31 名の総勢 41 名の参加である。安芸中野駅近くの広場に集まり、豊田理事長・村井副会長のご挨拶、そして森本指導部長による準備体操後、10 時前スタート。西国街道を少しだけ歩いて登山口に入り、すぐに蓮華寺着。理事長から、蓮華寺が福島正則によって焼き討ちにされた理由について諸説紹介があった。

その後、この寺が広島市中心の新四国八十八ヶ所霊場の第 36 番であるためもあり、不肖私メがプリントした霊場リストを紹介。併せて、お寺を訪ねた時、様々

ある仏像に私自身も看過しがちだったので、この機会にとまって少しだけ勉強し、「仏像の種類と見分け方」のプリントも紹介した。因みに各寺には〇〇如来、〇〇菩薩など、安置されているご本尊名がよく書かれているが、蓮華寺のご本尊は弘法大師である。

下見の時は3回ともそれなりに風があったが、この日は蒸し暑く、途中平らな所を選んで何度か休憩。一般参加者で一人不調になる方がおられ、スタッフ1名がついて下山したものの、皆さん元気そうだ。11時過ぎに道をそれて五輪塔に寄る。ここでも、五輪塔とよく似た「宝篋印塔」との違い等について説明。集合写真を撮った後、近道で中心広場に向かう。

疲れが見えておられたらそこで休憩或いは昼食を考えていたのだが、皆さん大丈夫そうなので広場で止まらず、そのまま蓮華寺山頂上に向かう。頂上 11:50 着。集合写真の後、各自日陰で思い思いに昼食。昼食後は、三角点の説明と豊田理事長の歴史説明。13:20 頂上を後にしたが、私自身の一つの反省は、頂上から見える鉾取山等の山座同定をしなかったことだ。

下りも一回ほど休憩し、14:20 蓮華寺着。JR の駅にそのまま行けるので、ここで解散とし、理事長の挨拶の後、解散。正味5時間余りの登山だったが、行き合った場所に依じてのいくつかの説明等で、少しは皆さんのお役に立ったとしたら幸いです。お世話様になりました。そしてお疲れさまでした。



蓮華寺での解説



五輪塔での解説と記念写真



安芸中野駅近くの公園で開会式



山頂にて記念写真と昼食休憩



稜線途中からの鉾取山塊

【歴史解説】

『あなたの（もしかしたら）知らない蓮華寺山』

(理事長 豊田 和司)

蓮華寺山山頂に立つのはこれで3回目です。蓮華寺は福島正則の焼き討ちに遭って滅んだとされていますが、焼き討ちの理由がはっきりしません。『瀬野川町誌』にも焼き討ちの記録はありますが、その理由は書かれておらず、巻末の伝説の部にその理由が挙げられ

ています。このあたりはお茶の産地で、福島正則の息子が茶摘み娘と恋仲になったのを政則がいさめたが聞かなかったため手打ちにした。それを後悔し、なぜ止めなかったのかと言って蓮華寺を焼き討ちにした、という無茶苦茶な伝説です。なぜでしょうか？

よそ者の私が不思議に思うくらいだから、この地域の歴史を研究する人は尚の事不思議に思うはずだ、と思い、広島市立中央図書館に行きました。すると「瀬野川郷土史研究会」というのがあり、その会報が広島県立図書館にあることが判明したため、そこに行って会報のバックナンバーに全部目を通しました。そこで発見したのが、賀戸為雄さんの「まぶたに浮かぶ瀬野川―霊峰蓮華寺山―」と題したエッセーです。平成6年7月10日の第16号と、平成7年1月20日の第17号の2回にわたって掲載されています。そこに、焼き討ちされた理由の考察がありました。尚、この会報のコピーをこの県民ハイキングで配布することは、瀬野川郷土史研究会の現会長の古川さんの了解を得ております。

(以下、賀戸さんのエッセーから何ヶ所か引用します。)

まず、蓮華寺の繁栄について。

「しかし何れにしても蓮華寺が日本の一大聖地として繁栄していたことは、疑いなくその山頂から麓にかけて、また今日の中野側と畑賀側とにまたがって本寺の堂塔の他大小幾十とない末寺末坊を擁し、伽藍が林立して大変な壮観を呈していたことが多くの地名や口伝から想像される。すなわち畑賀側には本寺跡・二王堂・魂殿・鐘楼・宝堂・学寮・土人屋敷・厩・花畠・塔岡、及び山内に仏土院・文殊坊・吉祥坊・新坊・北坊・西明院・観音堂・如来堂、山下に里坊・不動院・谷の湯など地名や跡地がある。中野側には西明院・大坊・吉祥坊・西林坊・北坊・長専寺・浄土寺・法専寺・宗源寺・吉祥寺・清光寺・東照庵・円龍寺・大蔵庵・円光寺・福専寺などという子院があったと言い伝えられている。」

続いて

「このような一大仏教聖地を福島正則はなぜ焼打ちにしたのであろうか。その原因について聊か探ってみ

よう。

その 1

当時専念寺前住職から次のような面白い話がなされていたと言う。しかしその根拠迄聞いている者がいない。

その頃この地方は茶を産して名があった。広島城主福島正則の子はたまたまこの里で見初めた一茶摘み娘の色香に迷ってしげしげと通った。正則はこれを知って誡めたが、耳をかさないので手討ちにすると責めた。老臣の諫止も効なく、その手討ちの日を宮島さんの祭日と定めた。その日がついに来た。正則はわが子の情愛にさいなまれた。日が経つにつれて、そのうつ情は深まるばかりであった。そしてそのうつ情は蓮華寺に向けられた。わが子を手討ちにしなければならぬ破目至った窮地を腕をこまねいて見ていたのは殺生を最高の誡めとする仏道に背く徒輩にすぎない、と兵を派して焼討ちにした。

その 2

この話の中の正則の子は嫡子ではなく、また手討ちの理由は茶摘娘に迷ったからではなく、その子が辻斬りの味に魅せられていたからである、と伝え聞いている人もある。

その 3

元畑賀福祉センター所長山田五己さんは、慶長年間僧の勢いが強いのおびえた領主福島正則の焼討ちにあい荒廃するところとなった、と言われている。

その 4

故老から口伝を聞いている近所の植本弥三郎君は、福島正則は短気な男だった。そしてその息子は放蕩者だった。蓮華寺の和尚はその後見役を仰せつかっていた。ある時、父正則が息子を折檻しているので老臣は使いを蓮華寺の和尚のもとに急派し救いを求めた。しかし正則の癪はおさまらず、その使いと和尚が帰りに着いた時には既に手討ちにした後だった。その癪の余勢が蓮華寺にむけられ焼討ちにされた。

その 5

当時故金子喜三さんは、福島正則は、広島城より高い所に居るとはけしからん、と言っていたそうである。

瀬野川町文化財保護委員会の現地案内板には、ただ広島城主の怒りにふれて焼討ちするところとなり云々とある。その何れもが口伝や伝説やらではっきりしないままに私も日々を過していた。

ところが過ぐる日、俳句の例会へ出席された民族学者である故田淵実男先生に尋ねてみた。

『それは、福島正則が蓮華寺の管長に次の二つのことを申し入れた。

- 1、現在の真言宗を廃して浄土真宗に改宗すること
- 2、山から広島城下へ降りて来て真言寺の筆頭となること

しかし、管長はその二項目とも拒否したので、福島正則は他の寺の改宗のための見せしめにするため兵を派して焼討ちにした。』

福島正則がなぜそんなに力を入れて浄土真宗にテコ入れをしたのかの疑問について

『それは、真言宗は貴族社会相手の宗教だから頼みにならん。大きな力となる農民、商人など大衆を味方にするには浄土真宗にしなければならないと言う腹であった。そして寺院結集を考えていた。』

“広島県の歴史”と言う本には、慶長十四年それまで打越町にあった真宗の仏護寺とその関係十二坊を寺町に移し、城郭の防衛線として、やや弱い感のあった北西部の堅めとした、とあるが、それは持論の寺院結集による蓮華寺への要求が思うにまかせなくて焼討ちした後ではなかったかと私は思う。」

以上が、賀戸氏の考察です。

田淵実男氏は、戦後社会党の国会議員もされた方です。彼の説では、焼討ちの理由が極めて明白です。しかし、もしそれが真実だとしたら、『瀬野川町誌』にその記述がなく、「その 1」で示された伝説だけが掲載されているのはなぜか？という疑問は残されたままです。

個人会員の石通宏行氏から、資料が送られてきました。

「福島正則による蓮華寺焼き討ちについて気になり少し調べてみました

福島正則は関ヶ原の合戦で徳川方につき、その戦功で

備後・安芸を治めることとなりました

1600 年 11 月末までに、毛利氏退去。広島城への入城は 1601 年 3 月とあります

1619 年 7 月改易と短い治世でした

さて、福島正則による焼き討ちの記載があるのは畑賀町の畑賀学区連合町内会のわがまちの歴史です

1) 畑賀町(旧畑賀村)は遠く弥生時代(BC300~AD300)の遺跡の残る、古くから人の住んでいた形跡のある村落です。(中略) 時代は下って慶長 5 年(1600 年) 11 月、福島正則が芸備(安芸と備後)両国 49 万石を拝領し、この時代に行政組織としての畑賀村が誕生しました。(中略) 全盛時代の蓮華寺には 29 坊に及ぶ塔頭(末寺)がありました。その後、蓮華寺は 1590 年代に福島正則による焼き討ちに遭って殆ど焼失しましたが、慶長 7 年(1602 年)末寺の一つ品秀寺が再興され今日に到っています。

2) 奥畑地区の弘法さん(お堂)の案内板
蓮華寺山の蓮華寺は大同元年(806 年)僧空海(弘法大師)の開基であって、山頂より畑賀・中野にわたる広大な地域に、大小幾十の堂塔伽藍末寺末坊を建立して、真言宗の一大霊場として栄えたが、慶長年間、領主福島正則の焼き打ちするところとなり、荒廃に帰した。

注) 慶長年間: 1596 年から 1615 年まで

3) 蓮華寺山の説明
蓮華寺山は標高 374m、今から 1200 年余前の大同元年(806 年)、唐から帰国して間もない空海によって開創された真言宗蓮華寺の遺跡を頂く由緒ある山です。1590 年代に福島正則によって焼き討ちに遭いましたが畑賀側頂上付近にその痕跡が残っています。

蓮華寺にまつわる他の話では

品秀寺について

品秀寺は芸藩通志によれば慶長七年(1602)の開基である。ここには古い杖が保存されている。これは蓮華寺にあった弘法大師の杖と追われている。

弘法寺について

不動堂とも言い、現堂宇は安政 4 年(1857)再建。蓮華寺が被災し、捨てられた本尊を持ち帰り祀ったもの。蓮華寺山と連なる鳥籠山(とこのやま)城主阿曾沼氏はこの地区の地頭でしたが、武田、大内、尼子、毛利の勢力争いに翻弄されていました

蓮華寺の説明板には

1527 年(大永 7 年)蓮華寺焼失(阿曾沼氏が大内側から尼子側に寝返り大内、毛利側に攻め落とされたため)

とあるようです

福島氏によって寺領を召し上げられ蓮華寺が衰退したのは確かだと思いますが、それ以前に寺の勢いは衰えていたのではないかと思います

地元の歴史家の方にでもお聞きすることができると思いますが・・・

中世の荘園から近世の藩による直接統治の流れで多くの寺社が衰退したようですから

長文失礼しました。」

(以上、石通氏より)

毛利の時代から既に寺の勢いが衰えていたのなら、福島正則はそのダメ押しをしたために、寺が減んだ責任を一手に背負う羽目になったのでしょうか? 説話は福島正則のダメ親ぶり、短気、とんでもない言いがかりなど、彼への悪意に満ちたもので、焼き討ちに遭った蓮華寺の残党の創作のようにも思われますが、それが事実と信じられ流布されるような言いがかりが当時の福島正則の側にもあったのだと思われま

3. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

第 5 回 9/3(日)

山城: 三倉岳 源助Ⅱ峰

人数: 22 名(スタッフ含)

二人一組になりアーナングⅡ、十六夜、白日夢、なごみスラブ、上のおっさん、色は匂えの 6 本でトップロープクライミングを行い、緩斜面でセカンドビレイの講習を行ないました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

(受講生 松井 邦幸)

7月以来、2か月ぶりの講習となった今回の教室のテーマは、チムニーの実践とカムデバイスを自身でクラックに抜き差しする事でした。

チムニーって何?と思い、帰宅後ネット検索してみました。「チムニーとは、岩壁にできた大きな割れ目のことを意味し、この割れ目を、身体全体を使って登る方法をチムニークライミングと言う。割れ目の形状が煙突(chimney)に似ていることからこの名前がつけられた。チムニークライミングは特殊な技術を必要とし、全く新しい体験を提供します。」とありました。…煙突の意味だったのでですね。

岩の隙間を芋虫みたいにノソノソと這い上がる感じが特殊な技術?…私は嫌いじゃありません。身体が空中に露出しないので、断然安心感があり、その上腕力もあまり使わずに済むので、高所恐怖症の私にとっては打って付けの登攀方法だと思います。

カムデバイスの抜き差しの方は、登攀で精いっぱいだったため、数回しか試せませんでした。無理をしても、もっと経験しておけばよかったと後になると思います。

登攀ラインは、アーナンダ2、十六夜(Ⓢ岩が不安定な箇所有り)、白日夢、なごみスラブ、上のおっさん、色は匂えどの6つで、これらを受講生7ペアでチャレンジしました。

ちなみに、私が完全到達できたのは、なごみスラブだけでした。

今までは、危険な岩壁をわざわざ登る意味を見いだしていなかったので、1コースのクリアでも満足していたのですが、今では少し考えが変わってきました。と言うのも、私の中で、より難度の高い山に登りたいという気持ちが強くなってきたからです。

先日、北アルプスのパノラマ銀座を歩いたのですが、そこから見た穂高連峰や槍ヶ岳の眺望は、それは美しく、次は、そこを歩きたいと思うようになりました。

しかし、この界限での遭難のニュースも多々聞かれます。現に、登山中も穂高方面からヘリコプターの飛行音が何度も聞こえました。後で確認したところ、複

数件の遭難事故があった様でした。

遭難を予防するためには、総合的な登山技術を高める必要があり、クライミングスクールでの技術・知識もしっかり身につける必要があります。

そういった訳で次回からは、自身の限界を試すべく、アグレッシブにチャレンジしてみたいと思います。

最後に、スタッフの皆様の丁寧なご指導に感謝申し上げます。スクールも残り3回となりましたが、10月からもよろしくお願ひします。

(写真提供 塩田)





4. 比婆山山系の沢登りルート紹介 (No. 2)

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

2023 年の夏は例年のない猛暑で登山は避けたい状況の中、以前紹介しました比婆山系尺田川上流に続き今回も比婆山系の沢を第二弾で紹介します。

今回は六ノ原川支流と熊野川源流の2ヶ所の紹介です。以前から気になっていました沢を、あまり期待できないと思いながらでしたが、思いがけない状況に出くわす事が出来ました。夏でも比婆を楽しめる場所にして下されば幸いです。

六ノ原川支流

初心者との沢登り体験には HOTEL 前から下流に 1.4 km 程度の所から遡行しながら慣れて頂くといいたろう。取り付き地点は「県民の森」の看板設置の広場の対岸に F1・5 m 滝が目に入り、そこから本来の取付となる。2本の滝口の正面から登る。ホールド&スタンスは安定しているが、しっかりと確認して登る。

しばらく続くゴロ帯を抜けると 2~4 m の滝が現れてくる。滝をすべて正面突破ができるので初心者、高齢者でも思いがけなく楽しい沢に遭遇できた。

突然目の前に 8~10m の落差のある滝が現れる。「うん？何処が登れる……？」登攀可能ルートは、T 氏が左、私が右側のルートで登るが、ロープが欲しい箇所だ。ロープを準備して後続者に登って頂く（右岸の高巻も可能）。中間ビレーピンが無いので注意して登ろう。

ここから 2~3 の小さな滝を抜けると、すぐ終了点で予定の管理道に出会う。一休みして下山する。ゆっくりと来て楽しんで帰れるルートとなると思います。

熊野川源流

熊野川源流は以前、立烏帽子駐車場までの林道を移動の際に林道脇から滝がチラリと目に入ることから探索してみたいと思うようになり、やっと実現することができたので紹介します。

内容は遡行しながらの記憶ですので多少の間違ひもありますこと、お許しください。

熊野川上流上尺田から立烏帽子駐車場に向かう途中、熊野川堰堤がある。カーブの上部に 2~3 台駐車出来る空き地があり、そこで準備して取り付いた。

遡行距離は 1.7km 程度だろう。堰堤を超えて沢に入ると沢の大きさにはそぐわない、大きな石のゴロ帯が続く。しばらく進むと最初の滝 (F1・5 m) に出会う。

期待通りの光景にホットしながら、次に期待する。F2・3 m から始まり、2~4 m の小さな滝が続いて現れるが大きい滝には出会えない。

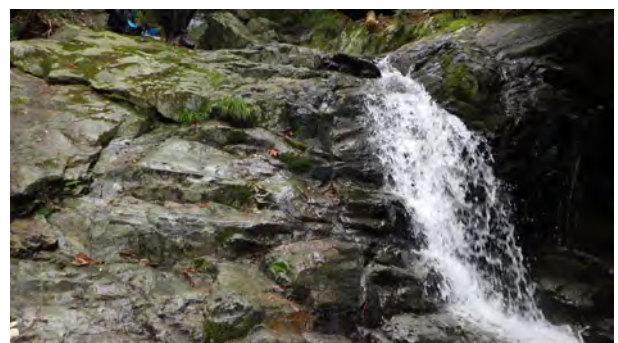
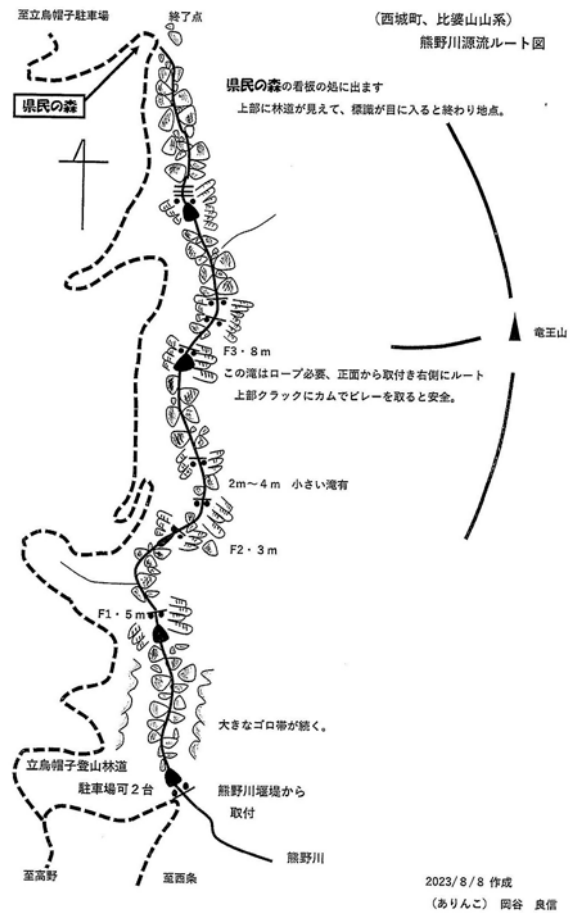
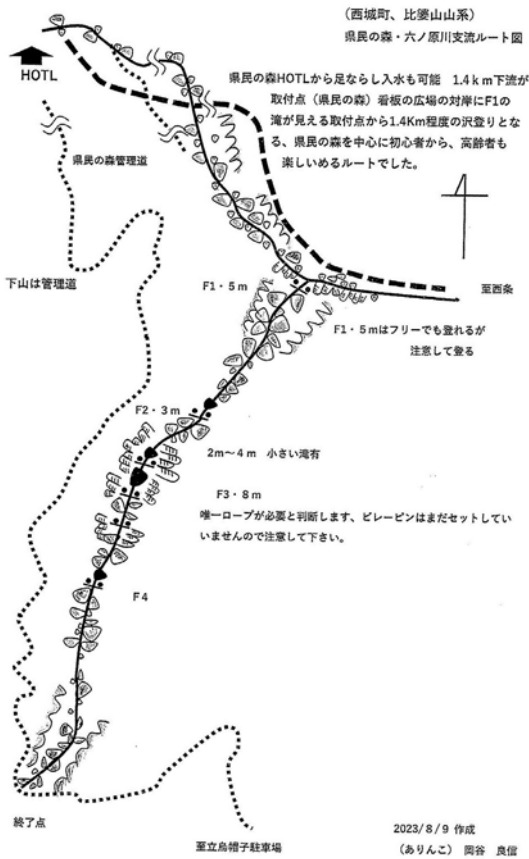
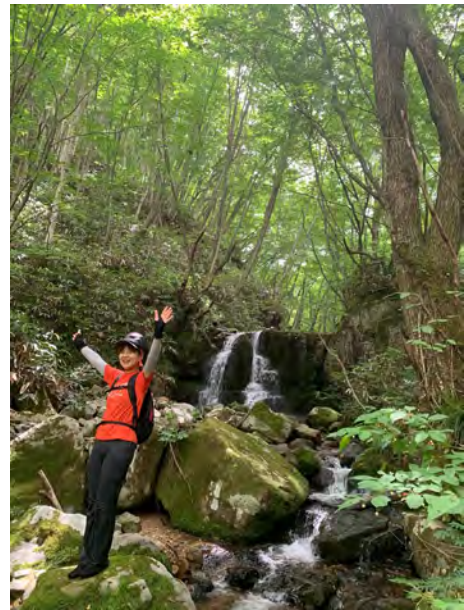
しばらく行きとやっとならぬ落差のある滝が現れた。F3・8~10m だろう。ここはロープが必要と判断する。滝に正面から取り付き、シャワークライミングで右側に

ルートを取る。上部のクラックにカムでビレーを取ると安全に登れる。

ここが、唯一ロープが必要な滝となったが、ここからは大きな滝は無く、初心者には楽しみながら登れるだろう。

滑滝を過ぎ、ゴロ帯を進んで右岸の林道沿いに標識が目に入る頃、源流に近い水量なった所で右側にガレ場と笹を分けて登ると林道に出、終了点とした。

今回の紹介で県民の森のフィールドを楽しんでいただければ幸いです。





5. ありんこチーム活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

参加者の感想文 (と写真) です。

『ありんこ 5 月の山行を終えて』

(個人会員 池田 敦)

令和 5 年 5 月 27、28 日にありんこチームは、四国、寒風山、笹ヶ峰、ちち山の遠征に出かけました。この日程は、岳連では比婆スカが行われており、ありんこチームのメンバーも多くの方がそちらに参加するため、今回の山行は、5 名と少数の実施となりました。

5 月は、ゴールデンウィーク、サミットがあり、スケジュール調整が難しく、岳連行事と重なったことは、計画を立てる者としてとして大変後悔しました。

しかし、今回の山行は、四国の山々を楽しく、そして当初は丸山荘という四国の小屋で、長く営業されてきた人気の焼肉料理を食しましょうという、ありんこでは異端の「ゆるやか登山」を計画しました。しかし、ふたを開けると、まず、丸山荘が今年度から営業しないということを知りました。理由は老朽化が激しく安全が保てないといことでした。実際は、丸山荘の避難小屋に宿泊したのですが、台風の際は泊まりたくありませんでした。山荘の一階に泊まったのですが、一人の時でも泊まりたくありません。夜中、老婆が包丁をシャー、シャーと研ぐ音が聞こえそうです。その日は風が強く小屋のそこかしこでガタゴトと音が絶え間なく聞こえてきます。

それでも、我々は 8 時くらいに就寝し、翌朝外を見るとふた張りのテントがありました。聞くと夜 9 時頃こちらに到着し、我々がいるので、テント場にテントを張ったということでした。

2 人のパーティで石鎚山からここまで縦走してきたとのこと、20 キロ以上歩いてきたすごい健脚者です。

一方、我々の行程は、6 時に広島のパ A で集合し、8 時 30 分寒風山登山口に到着し、9 時ころから登山開始しました。ゆっくり歩き寒風山、笹ヶ峰

から午後 4 時ころに丸山荘に到着し、5 時ころには焼肉パーティーを始めています。

2 日目は、急ぐ行程でもないので 5 時に起床し、ちち山を目指しました。四国山地の背骨のようで南に太平洋、北に瀬戸内海を望むことができました。

その後、前日はガスでまったく景色がなかった笹ヶ峰で 360 度の景色を堪能した山行となりました。



6. 岳連短信

1. 寄贈御礼

8/22 三原山の会『筆影』No. 522 (9月号)

(8/24) 広島山稜会『峠通信』770

8/19～9/2『中信高校山岳部かわらばん』727～730

2. 9～10月の行事予定

9/26～10/1 第4回連盟写真展 (NHKギャラリー)

10/8～10 第78回国民体育大会 SC 競技 (鹿児島県)

10/25 全員協議会 (西区民文化センター)

10/27～29 中国高校登山大会 (鳥取県氷ノ山)

10/28～29 パラクライミング ジャパンシリーズ第 1 戦 (福山 エフピコアリーナ)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。